

業務展望レポート			
7	林 賢彦	所属名	徳島県教育委員会 教育文化政策課
		職名	社会教育主事

[1]研修参加の意義

開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立てる。研修参加後は、教育現場で国際理解教育/開発教育を推進する中核と慣れるように尽力する

[2]海外研修全般に関する所感

現地研修を通じて、ネパールの経済や生活の現状を肌で感じ取ることができた。国内に働き口が少なく、GDPのほとんどが出稼ぎによる海外からの送金に頼っている現状や政権や憲法が定まらず混沌とした状態の中それでも国民はたくましく生きている姿に、終戦後の日本の状況を見たような気がした。この研修で国によって抱える問題は様々であり、国が目指す方向性(世界の中での役割)も一律に先進国を目指さなくても良いと感じた。そのことは、教師として教育をする子ども達全般の将来にもいえることで、自分の能力や役割を果たして社会に貢献できればいいのだと感じた。

[3]特に印象に残った視察・訪問先を3つ挙げ、その内容をご記入ください。

視察・訪問先	所感
パトレケット村ホームステイ	ネパールの農村民家での生活体験を通じて、日本との文化の違いや共通点、日本人が忘れかけている人や家族のぬくもりを体感することができた。宿泊したお宅のご子息は英語が堪能で、ネパールで英語教育に力を入れていることを実感する。 この体験を教育現場で活かしたいと感じた。
世界文化遺産 パタン地区	王宮を中心とした町並みや修理現場を見学し、ネパールでの文化遺産修復の現状と課題、また防災、耐震などの現状と課題について知ることができた。パタンの住宅は家族が増える度に上へ上へと増築を朽ち返し、耐震化ができておらず、シニアボランティアによると地震が起こると町が壊滅するだろうとのこと。国の対策と海外からの技術的な支援が必要だと感じた。
ラブグリーンジャパン	現地NGOラブグリーンネパールとの共同事業で、植林や園芸野菜の栽培、バイオガスの普及活動を行っている現場を見学した。草の根的な活動であるが、ネパール人の意識改革をするのであれば草の根的な活動の方がなじむのかなと感じた。

[4]今後の業務における活用の可能性

- ・地方自治体での交流、人材派遣等
- ・学校教育での普及活動
- ・学校教育、教育研修所等での教材開発
- ・民間レベルでの文化交流等の推進